



すきでんぬきほぎ  
**京都・主基田拔穂の儀違憲訴訟**  
**公開学習会**

# 『皇室は宗教とどう向き合ってきたのか』

**講師：原 武史さん(政治学者)**

私たちは、「令和」の大嘗祭に関連する儀式（抜穂の儀・大嘗宮の儀）に京都府知事や公務員が公費を使って参加することは、信教の自由や政教分離原則に反するとして「京都・主基田拔穂の儀違憲訴訟」を闘ってきました。去る2月7日京都地裁判決は、私たちの主張に向き合うことなく、「社会的儀礼」とか「一般人の宗教意識」に基づく中身の無いスカスカの内容でした。私たちは当然、控訴いたしました。今年の夏頃には大阪高裁での口頭弁論が始まります。

この裁判は、私たちの基本的人権や市民権が侵害されていることに対する異議申し立てであると同時に、これらの「自由」から、彼ら（皇族）も排除されており、この状態を糾すことは、自らの権利を守ることと同時に、個人として人間としての責務であると考えたからです。

天皇の宗教は神道（皇室神道）と思われていますが、京都東山区にある泉涌寺（真言宗）には、鎌倉時代から江戸時代にかけての天皇の墓がずらりと並んでいます。天皇家の菩提寺だったこの寺は「御寺（みでら）」と呼ばれていました。天皇が寺から完全に分離され、仏教色を廃した天皇陵に祀られるようになったのは、実は明治以降です。

今回の学習会では明治期以降、皇室がどう宗教と向き合ってきたのか、原武史さんに学びたいと思います。みなさまご参加ください。

**日時：5月11日(土) 午後1時30分開会～4時30分**  
**開場（午後1時）**

**会場：エルおおさか5F 視聴覚室(大阪・天満橋)**

**参加費：1000円(学生・障がい者等500円)**

**\*リモート参加申し込み↓ 締め切り5月10日**

<https://forms.gle/rumucnWNQjdmrnKv7>



原武史 政治学者・鉄学者。明治学院大学名誉教授、放送大学客員教授。専攻は日本政治思想史。著書『昭和天皇』（司馬遼太郎賞受賞）『滝山コミュニティー一九七四』（講談社ノンフィクション賞受賞）『「民都」大阪対「帝都」東京』（サントリー学芸賞受賞）『大正天皇』（毎日出版文化賞受賞）『歴史のダイアグラム』『皇居前広場』『〈出雲〉という思想』『可視化された帝国』『皇后考』『「昭和天皇実録」を読む』『地形の思想史』『「線」の思考』『戦後政治と温泉』など多数。



今年の夏には、  
 大阪高裁で口頭弁論が  
 始まります。  
 ぜひご注目ください!

**主催 京都・主基田拔穂の儀違憲訴訟団**

**連絡先：大阪府中央区内淡路町1丁目3-11-402 TEL.06-7777-4935**